

科目名	初等国語（含書写）			担当教員	神永 裕昭
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED1SRE101
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験	教諭				
実務経験を生かした授業内容	学校現場での経験を活かし、国語教科書に掲載する教材を取り上げながら講義する（第1～13回担当：神永）。				
到達目標及びテーマ	①言葉を通じて伝え合うよさを味わうとともに言葉の大切さを自覚し自己の「話す・書く・聞く・読む」能力の向上を図ることができる。 ②論理的な思考力や判断力、感性や想像力を養い、自分の思いや考えを深め、表現することができる。 ③日常生活に必要な国語の知識及び技能を身に付け使うことができる。				
授業の概要	言語形成期にある児童にとって、言葉を獲得し、言葉による理解・表現は大切な活動であり、この期の言語教育は極めて重要である。初等国語では小学校学習指導要領国語の目標及び内容に鑑み、教科指導に必要な専門的基礎知識、音声・語彙・漢字・文法等の国語の知識を正確に学習し、「話す、聞く、書く、読む」領域とのかかわりを考えながら、教育に必要な言語事項の理解を深める。さらに、恒常的な図書館の利用、読書と書物の紹介という活動を通して自己の言語生活を一層豊かなものにする。書写では、書写への理解を深め、教師自身に求められる書写能力を身に付ける。				

授業計画	
第1回	「初等国語（含書写）」の授業の流れや構成についての説明を聞き、全体像を理解する。国語科教育について理解する。
第2回	国語科教育の目標（国語科の総目標、学年の目標）や構造、現代の国語科教育について理解する。
第3回	「話すこと・聞くこと」① 音声言語としての日本語の特徴を理解する。
第4回	「話すこと・聞くこと」② 音声言語における他者とのコミュニケーション機能について理解する。
第5回	「書くこと」① 文章の種類や形態、文章形成のプロセスについて理解する。
第6回	「書くこと」② 論理の特徴や論理の組み立てについて理解する。
第7回	「読むこと」① 説明的な文章の構造について理解する。
第8回	「読むこと」② 文学的な文章の構造について理解する。
第9回	「知識及び技能」① 漢字の特徴や読書活動について理解する。
第10回	「知識及び技能」② 品詞の働きや敬語などの言葉のきまりについて理解する。
第11回	「知識及び技能」③ 和歌や俳句などの伝統的な言語文化や音読の方法について理解する。
第12回	「知識及び技能」④ 日本語の特色や言葉遊びについて理解する。
第13回	授業を振り返り、まとめのテストを行う。
第14回	書写 第1回 硬筆による平仮名の特徴と基本 第2回 硬筆による漢字の特徴と基本 （担当：五井佳代）
第15回	書写 第3回 毛筆による平仮名の特徴と基本 第4回 毛筆による漢字の特徴と基本 （担当：五井佳代）

事前学修	2時間	シラバスで授業範囲を確認し、毎回「学習指導要領」の該当部分を読み、整理しておく。
事後学修	2時間	授業の内容を整理する。扱った内容について指導者の立場で授業の展開を考える。
フィードバックの方法	学生の発言や振り返りについてコメントする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	50%	教科指導に必要な専門的基礎知識を正確に学習したか試す問題を出す。
レポート	20%	図書館を利用した読書と書物の紹介等を評価する。

上記以外の試験・平常点評価	20%	書写における提出物・授業への参加度を評価する。
上記以外の試験・平常点評価	10%	初等国語の授業の振り返りの記述内容を評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領（平成29 年告示）解説 国語編	文部科学省	東京書籍	978-4487287031	262円
参考資料	「幼稚園教育要領」			

科目名	初等国語（含書写）			担当教員	今井 亨	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED1SRE101	
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート					
実務経験	教諭					
実務経験を生かした授業内容	学校現場での経験を活かし、国語教科書に掲載する教材を取り上げながら講義する（第1～13回担当：今井）。					
到達目標及びテーマ	①言葉を通じて伝え合うよさを味わうとともに言葉の大切さを自覚し自己の「話す・書く・聞く・読む」能力の向上を図ることができる。 ②論理的な思考力や判断力、感性や想像力を養い、自分の思いや考えを深め、表現することができる。 ③日常生活に必要な国語の知識及び技能を身に付け使うことができる。					
授業の概要	言語形成期にある児童にとって、言葉を獲得し、言葉による理解・表現は大切な活動であり、この期の言語教育は極めて重要である。初等国語では小学校学習指導要領国語の目標及び内容に鑑み、教科指導に必要な専門的基礎知識、音声・語彙・漢字・文法等の国語の知識を正確に学習し、「話す、聞く、書く、読む」領域とのかかわりを考えながら、教育に必要な言語事項の理解を深める。さらに、恒常的な図書館の利用、読書と書物の紹介という活動を通して自己の言語生活を一層豊かなものにする。書写では、書写への理解を深め、教師自身に求められる書写能力を身に付ける。					

授業計画	
第1回	「初等国語（含書写）」の授業の流れや構成についての説明を聞き、全体像を理解する。国語科教育について理解する。
第2回	国語科教育の目標（国語科の総目標、学年の目標）や構造、現代の国語科教育について理解する。
第3回	「話すこと・聞くこと」① 音声言語としての日本語の特徴を理解する。
第4回	「話すこと・聞くこと」② 音声言語における他者とのコミュニケーション機能について理解する。
第5回	「書くこと」① 文章の種類や形態、文章形成のプロセスについて理解する。
第6回	「書くこと」② 論理の特徴や論理の組み立てについて理解する。
第7回	「読むこと」① 説明的な文章の構造について理解する。
第8回	「読むこと」② 文学的な文章の構造について理解する。
第9回	「知識及び技能」① 漢字の特徴や読書活動について理解する。
第10回	「知識及び技能」② 品詞の働きや敬語などの言葉のきまりについて理解する。
第11回	「知識及び技能」③ 和歌や俳句などの伝統的な言語文化や音読の方法について理解する。
第12回	「知識及び技能」④ 日本語の特色や言葉遊びについて理解する。
第13回	授業を振り返り、まとめのテストを行う。
第14回	書写 第1回 硬筆による平仮名の特徴と基本 第2回 硬筆による漢字の特徴と基本 （担当：五井佳代）
第15回	書写 第3回 毛筆による平仮名の特徴と基本 第4回 毛筆による漢字の特徴と基本 （担当：五井佳代）

事前学修	2時間	シラバスで授業範囲を確認し、毎回「学習指導要領」の該当部分を読み、整理しておく。
事後学修	2時間	授業の内容を整理する。扱った内容について指導者の立場で授業の展開を考える。
フィードバックの方法	学生の発言や振り返りについてコメントする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	50%	教科指導に必要な専門的基礎知識を正確に学習したか試す問題を出す。
レポート	20%	図書館を利用した読書と書物の紹介等を評価する。

上記以外の試験・平常点評価	20%	書写における提出物・授業への参加度を評価する。
上記以外の試験・平常点評価	10%	初等国語の授業の振り返りの記述内容を評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領（平成29 年告示）解説 国語編	文部科学省	東京書籍	978-4487287031	262円
参考資料	「幼稚園教育要領」			